

## トラン バオ クイン

ベトナム出身

上智大学 グローバルスタディーズ研究科グローバル社会専攻 修士課程

## デジタルの時代

新型コロナウイルス拡大の影響で、「デジタル」というキーワードの重要性が強く感じるようになりました。新型コロナウイルスが広がっている中で、不要不急の外出の要請に伴い、Zoom や Microsoft Team というビデオ通話プラットフォームでコミュニケーションを取る傾向があります。私は、ベトナムから日本に戻ってから、主に研究と就職活動に取り組んでいますが、オンラインで指導先生とディスカッションをしたり、就職先の社員と面接を受けたりしています。このような世界的な緊急状況は、誰にとっても初体験であり、外出自粛やテレワークの不便さを感じていると思いますが、デジタルの技術発展のお陰で、物事をある程度進め続けられています。そこで、私が考えたのは今がこれまでのやり方を見直すべき時期ではないかと思います。

日本での生活において、デジタル化の遅れにより、今まで最も不便を感じたのが留学ビザ更新の経験です。大学院に進学した時、ビザ更新の手続きを行うために、品川にある東京出入国在留管理局で長時間にいました。更新の手続きとしては書類を職員の方に提出することだが、提出するのに、朝の 9 時から午後の 3 時まで順番的に待って、その後の 5 分だけで書類提出が終了するという時間の無駄を実感しました。現在、日本全国のコロナウイルス感染拡大で、人との接触ができるだけ避けるため、入管

局はビザが切れている外国人に対して自動的に 2~3 ヶ月の滞在期間を延長するという政策を出しています。だが、この機会を機に、すべての手続きをオンラインで行うという流れに変更する必要があると思います。日本の文化において、ハンコによる署名が長い歴史を持っているため、そのようなことはデジタル化の動きが遅れている原因の一つであると思います。例えば、もしデジタル署名などによる作成者の認証を確認できたりするような仕組みが実現されたら、対面で書類を提出する手間を省けます。また、管理側も素早く対応できるのではないかと思います。

だが、デジタル時代の弱みとして、セキュリティ脆弱性やプライバシー問題が考えられます。そのため、セキュリティとプライバシーを確保する取り組みを配慮するうえで、これからユーザーが便利で安心に使用できるような「デジタル」の時代に少しずつ変わりつつ未来を期待しています。



【部屋にあるぬいぐるみの写真の一枚】